

## 戊辰戦争の遺構（①戊辰戦争及位の戦い台場跡・④戊辰の古戦場跡）



慶応4年(1868年)7月、新政府軍は、奥羽列藩同盟軍討伐のために院内から雄勝峠を越え、及位村(旧及位)北側に兵を進めた。古戦場跡地(写真右)は、同盟軍が新政府軍を迎え撃った場所であり、激戦地となった。また、同盟軍は地蔵堂付近に第1の台場、その近くの墓地付近に第2の台場を設けて防戦したが、新政府軍の猛攻により次々とそれらを捨て、第3の葛搔台(写真左)、第4の台場、第5の台場(主寝坂峠の頂上)を陣地として激しく銃砲戦を展開した。歴史上の大変革といわれる明治初期における当町の情勢、当時の防御陣地の規模・構造を示す戦場の遺構として、これらは極めて重要な史跡である。

※「羽州街道 及位宿」から一部抜粋

【メモ】

## ○及位地区地図

